

## 【取組内容④】 TeamsやForms等を活用した業務改善の取組

## 【その他：（実践1）生活アンケートについて】

毎月末実施している全校生徒対象の「生活アンケート」をFormsを活用して実施している。専任生徒指導主事より全校生徒に「生活アンケート」を配信。情報の集約・共有がリアルタイムで素早くできるため、早期対応・早期解決につながっている。

## 【その他：（実践2）部活動の欠席連絡について】

本校では、平日は19：00より、土日・祝日は終日、留守電対応を実施している。そのため、土日・祝日の部活動の欠席連絡はFormsを活用している。

思永中学校部活動欠席申請

保護者が必ず申請してください。

\* 必須

1. 欠席する日\*

日付を入力してください(yyyy/MM/dd)

2. 所属部活動名\*

国々の選択

3. 学年\*

## 【校務のDX化の実践を通して】 ～ポイント：「時代の流れを自覚する」「クラウドの活用に慣れる」～

「会議の時間の短縮」「事前に十分議論し、よりよい実施案にする」を目的として会議のDX化に取り組んだ。文書を配信することで、ペーパーレスにも効果があった。

《職員の声》

- 部活動の指導で職員会議に出席できなくても後から確認できるようになった。わからなくなった時なども何度も資料を確認でき、必要に応じて印刷もできる。（研修も同様に、参加できなかった職員に研修内容を周知することができる。）
- スムーズに会議ができています。効率化が図れている。
- クラウドの活用にまだ十分慣れていないため、会議中に資料を探せないこともあった。送られてくる文書が多いため、必要なときに探しにくいことがある。
- 事前の資料の確認や提案に対する意見を事前に出すことはなかなか難しい。また、行事や取組等を実施する直前になって意見や検討事項が出ることが多いので、提案事項の決定の前に「熟議する」という流れが定着するとよい。
- 会議は問題ないが、研修は慣れないので、もう少し手順の説明が欲しい。

会議や研修のDX化について、最終的には肯定的な意見が多かった。当初は、会議前に配信した文書をどれだけの職員が確認しているのか等を把握するために、繰り返し文書の確認を呼びかけた。このような取組の中で、職員からは「各自が時代の流れ（DX化の推進）を自覚する必要がある」という意見が出た。また、クラウドの活用が難しいと感じている職員においても「会議や研修方法に慣れる」ことを意識する姿が見られるようになった。このような職員の声や姿勢に対して、会議や研修のルールを作成したり、サポート体制を整えたりすることで、さらなるDX化の推進にチャレンジしたい。